

いつまでも健康な体でどこまでも

けんしょうかい

健翔会だより

46 号

2015・11月1日

発行所

香川県坂出市川津町

(〒762-0025) 3329-14

医療法人社団 健翔会

堀口医院

TEL 0877-45-8686

◎本紙に関するご意見、ご質問がありましたら
お気軽にどうぞ！

<担当>高橋, 青北

TEL 0877-45-8686 FAX 0877-45-8883

HP <http://www.horiguchi-hp.jp>



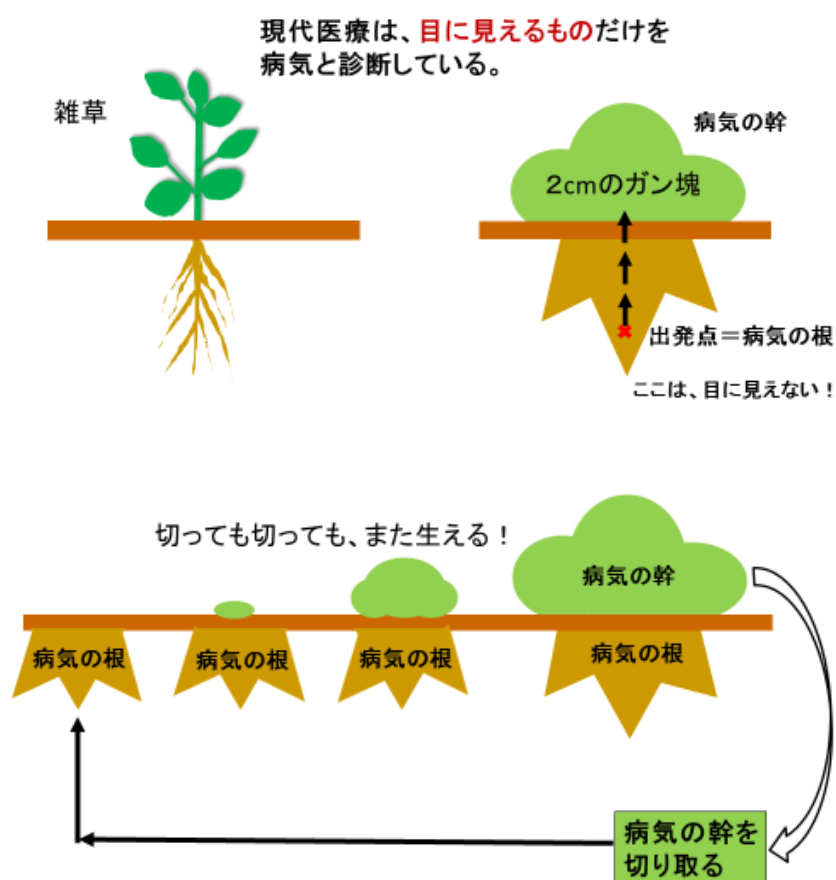
堀口 裕 先生

病気には必ず“根”が
あります。
その根を見つけて、しっかり
抜き取りましょう。



1. 根元(ねもと)医療とは

根元医療とは、私どもが新たに提唱している医療であります。ですから従来の医学書に記載がありません。しかし、今後の医療になくてはならないものと思っています。根元医療は決して難しいものではありません。これまでの西洋医学が、主として“目に見えるもの”を病気として取り扱う医療であるのに対し、根元医療は、決して目に見えませんが、病気の始まりの部分、すなわち病気の根の部分を取り扱う医療です。目に見える病巣をどれだけ切除しても、病気の根がある限り、病気をなくすことはできません。例えば大腸ガンを何度切除しても、そこに根があるなら何度でも再発・転移する可能性があります。根元医療とは、病気の根を見つけ、病気の根を取り除く医療のことです。

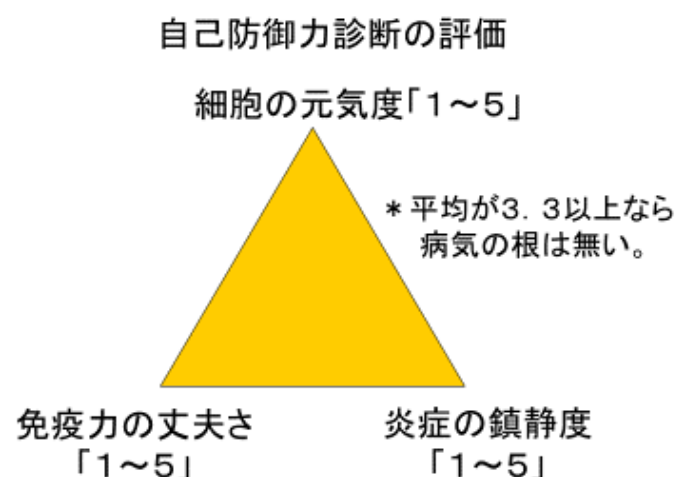


2. 病気の根を見つける

病気の根とは何でしょうか？そもそも病気になるかどうかは自分次第です。つまり病気になるもならぬも自分が鍵を握っています。では病気になる時の自分と、病気にならない時の自分では、一体どこが違うのでしょうか？それは病気にならないときの自分には、病気を防ぐだけの盤石な力があるのです。そして病気になる時の自分は、病気を防ぐ力が殆どなかったという分けです。このような力のことを「自己防御力」といいます。実はこの考え方が、現在の西洋医学にやや不足しているのです。最終的に病気になるかどうか、または病気を治せるかどうかは自分の自己防御力次第なのです。

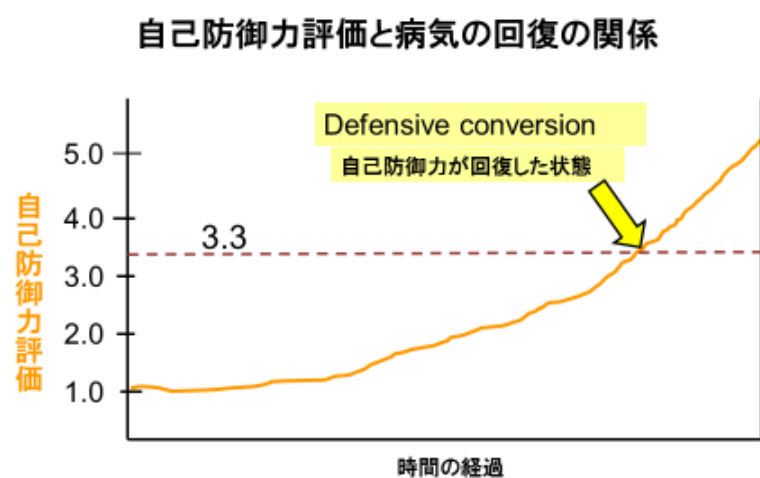
3. 病気の根の深さを評価する

自己防御力が低下した状態を病気の根がある、といいます。これまでの医療では、このような考え方が重視されていませんでしたので、自己防御力の評価方法も特に決められていませんでした。しかし西洋医学が発展すればするほど、今後の医療にどうしても必要になります。これまでの私の臨床経験から、自己防御力とは①細胞の新陳代謝度 ②免疫機能バランス度 ③炎症の鎮静度の3つから成り立つと考えて評価しています。人の体が病気になるのは、究極のところ細胞です。もし大腸ガンと診断されたら、正確なところ、それは“大腸の細胞がガン化した病気”というべきです。病気になる場所が細胞であることから、細胞の新陳代謝が最も重要です。また通常免疫力が体中の細胞を護っていることから、免疫機能が十分に発揮できている時ほど病気が起こり難いと考えられます。そして最も厄介な問題は炎症の存在です。炎症がある時ほど病気の細胞が増えます。結局、細胞の新陳代謝が良好で、免疫バランスも良く、そして炎症の鎮静化ができている時ほど自己防御力が高く、病気の根が存在しないことになります。



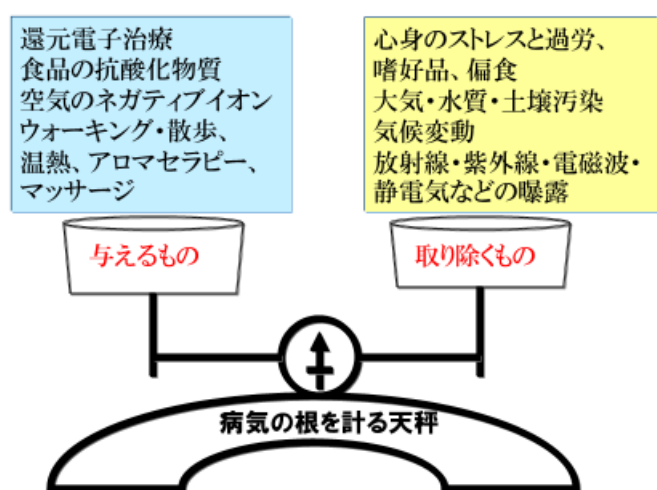
4. ピンピンコロリは、病気の根を抜くこと

病気の根が抜けたかどうかは、自己防御力を客観的に評価する必要があります。細胞の新陳代謝は細胞内検査(独自の検査)を用いて、また免疫機能バランスは免疫バランス評価シート(独自の検査)を用いて、そして炎症の鎮静度は血中ラジカル生成能((株)SRL)を用いて調べます。最終的に各項目を5段階に分け、3つの合計の平均値が3.3以上で合格になります。つまり病気の根が抜けている状態になります。しかし、ただ一度きりの合格ではダメです。常に合格している必要があります。いまある病気をすっかり治すためには、西洋医学を中心とする現代医療はもちろんのこと、病気の根を抜く根元医療の実践が必須であります。また大勢の方が希望されるように、「最期はピンピンコロリで！」を現実のものにするには、日ごろから病気の根を抜いていることが必要です。



5. 病気の根を治療する

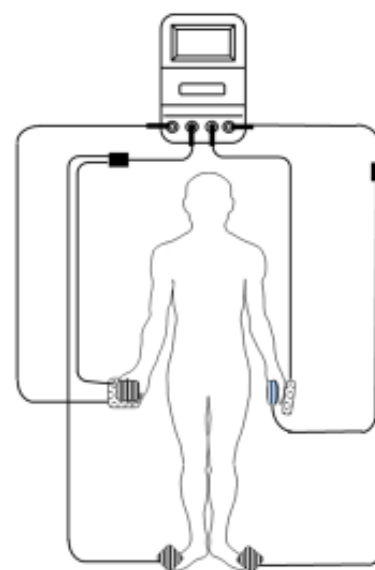
病気の根を抜くためには、大きく分けて2つの事柄を実行しなければなりません。一つは病気の根をつくる原因、それを取り除くことです。最も大きな原因は、繰り返される心身のストレスと過労です。その他には偏食や嗜好品の習慣、また放射線・紫外線・電磁波・静電気の曝露、そして空気・水・土壌などの環境汚染です。それらを積極的に取り除くことが必要です。もう一つは病気の根をつくらないための努力です。食事内容をバランスの良いものにし、とりわけ緑黄色野菜や背の青い魚を食べることです。これらには抗酸化物質が含まれていて、自己防御力を高めるのにとっても有用です。最近では健康食品や漢方薬を利用する方も増えています。また日ごろから散歩やウォーキング、体操を取り入れ、できれば森林や緑地へ出かけて、すがすがしい空気を浴びましょう。その他には気分を爽やかにするために音楽やアロマセラピー、マッサージ、温熱なども効果的です。そして私どもは、より積極的に自己防御力を高める目的で還元電子治療(独自の治療法)を実践しています。



6. 病気の根を治療する還元電子治療

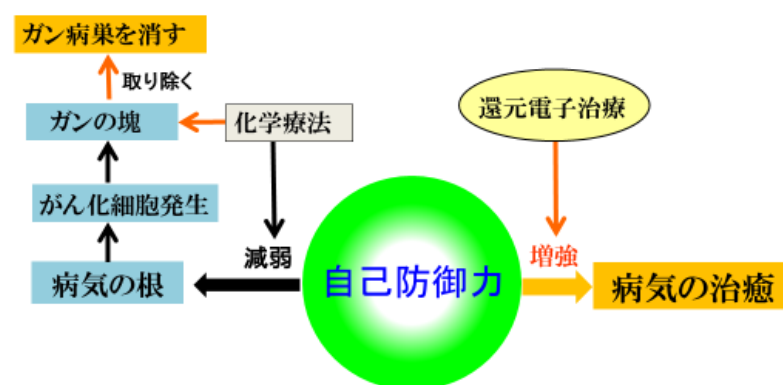
還元電子治療は、直に病気を治療することはできません。例えば直接ガンの病巣を攻撃したり、すぐに高血糖値や高血圧を下げたりもできません。あるいは脳梗塞や心筋梗塞の治療薬になることもできません。しかし病気を繰り返さないために、すなわち病気の根を抜くことに対しては素晴らしい効果を発揮します。

還元電子治療の機械的原理は、単に“電子”を生み出すだけの仕組みです。他には一切の機能はついていません。ただ付け加えて言えば、発生した電子を人の体内に取り込みやすくする手法が使われています。何故それほど電子を与えることが重要であるのか？それは抗酸化物質と同様、あるいは空気ネガティブイオン同様に、電子というものが唯一細胞の掃除をする究極の物質だからです。したがって速やかに自己防御力の回復を図ろうとする場合には、特に必要とされる治療になります。



7. 化学療法と自己防御力の関係

ガンになられた場合には、必要に応じて化学療法(いわゆる抗がん剤)が用いられます。化学療法の最も素晴らしいところは、病気を見えなくできることです。画像診断や血液検査上、異常所見が消えることです。しかし残念ながら病気の根を抜くことはできません。またそれ以上に、時として病気の根をさらに深くすることがあります。すなわち自己防御力がさらに低下することによって、病気がさらに出やすくなります。それゆえ化学療法を行うときは、自己防御力の低下を防ぐために、還元電子治療の併用をお勧めします。



8. 根元医療のはじまり

日本においても医療技術の進歩は大変素晴らしいと思います。そのお陰で沢山の方が病気を克服しています。しかしその反面、治療しても治療しても病気が治らない場合も多くみられます。素晴らしい医療技術を用いても、病気を治癒(ちゆ)に追い込めないなら、それはとても残念なことです。現代医療を十分に活かすためにも、本来の病気の出発点である“病気の根”を抜く作業も一緒に行うべきだと思います。現在、根元医療に関係する勉強会と発行雑誌を以下にご紹介します。



❀ 健康講座のご案内 ❀

下記日程で堀口医院の健康講座を開催します。

日時：平成27年11月7日(土曜日)

午後1時～3時(受付開始時間は12時15分)

場所：堀口医院 1階リハビリテーション室